

青海島 山口県

観光立国をめざして

青い色で塗装された「青海大橋」。漁船や観光船が出迎えてくれる

「象の鼻」。海中を海藻が覆い、象が鼻を使って食べる姿にも思える

人気の地元産イワシの日干し

湾内で育てた海の幸。漁師さんの掛け声が響く

文・撮影／高野 弘…水中・水辺のフォトジャーナリスト。高知県出身。大阪府豊中市在住。国内外の水中・水辺をテーマに撮影。国内外の新聞、雑誌、広告などに掲載・採用される他、マレーシア、香港、中国など、在日の各国政府観光局からの撮影・取材依頼も多数。執筆や公演も手掛け。加えて自らが作詞・作曲した歌に乗せて自然の尊さをギターで弾き語る「高野弘フォトコンサート」も主催するなど多彩。（検索：アクアイメージ）



童話詩人・金子みすゞの作品に触れ、余韻とともに青島島へ



山口県の魅力を海から発信！

長門市を抜け、青海大橋を下るその先に海辺の街並みが目に飛び込んできた。早速、島の海岸へ。森が海に迫り海藻類がつく岩礁帯が続く。海の幸を育てる条件が整っている。「象の鼻」と呼ばれる奇石。日本海に鼻を沈めたような雰囲気があり、迫力満点。「象の鼻」など海上アルプスの景観に触れた後は、海の幸にレンズを向ける。島の漁師さん達が管理するマリンファーム仙崎を訪ねた。今日は年1度の定置網を上げる日。育てた魚を出荷するための大切な日で、多くの漁業関係者が定置網の引き上げに参加した。掛け声とともに網上げの作業が続く。やがて引網の輪が小さくなり、網の中の魚が尾で海面を激しく叩く。姿を現した魚種は、メーター級のブリ、マダイ、ヒラメ、イシダイや値が張るマハタなど多数。まさに日本海の海の幸だ。正月が近づくとイワシ漁も盛んだ。空地でゴマメ用にイワシを干している。「写真撮らせてもらっていいですか?」「ワタシ?」「ン、イワシですが」そんなやり取りで撮影の許可を頂いた。山口県は水辺が面白い!